

令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立沼津特別支援学校 愛鷹分校 P T A
学 校 名	静岡県立沼津特別支援学校 愛鷹分校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	51人

1. 使用状況

寄贈物品名	ミシン (コンピューターミシン&ロックミシン)
使用学年及び人数	全学年 28名(作業学習:布工房在籍者)
使用頻度	週4回程度
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習での使用(布工房) <1年生:毎週火曜日、水曜日…計2回> <2年生:毎週火曜日、金曜日…計2回> <3年生:毎週月曜日、水曜日…計2回>
物品の使用による変化や効果	布工房では、エコバッグやティッシュケース、ポーチなど、地域や年代のニーズに合わせて、様々な製品を作成しており、地域の事業者や関係の方々に販売をする機会を設けている。寄付を頂いたコンピューターミシンを使用することにより、効率よく製品を制作することができている。また、ロックミシンをいただいた事により、布端の始末の簡略化を図ったり、製品開発ができたりと、生徒たちの充実感につながっている。また、今年度は地域の方々を招いての製品販売会を計画しており、意欲的に活動に取り組むことができている。
今後の活用の見通しや課題	申込当初の目的は、概ね達成できていると考えている。今後も、生徒が主体的に製品作りに取り組んだり、新たな製品開発を行ったりし、達成感を感じられるようにしたい。しかしながら、コンピューターミシンの機能を活用しきれていない部分もあるため、更なる教材研究を重ねる必要があると考えている。
その他希望や所感など	教師にとっても、コンピューターミシンの活用は生徒への支援方法や環境設定を考えるなど、作業学習を見直す機会となっている。また、製品作りに取り組む中で、卒業後の進路として、「縫製」に興味をもつ生徒が出てくることを期待している。

2. 活用の様子

- 布工房でコンピューターミシンを使用し、製品を作成している様子
- ・2年男子生徒



- ・3年女子生徒

